

ほっかい新報

2008年 週刊 月3回発行

2月3日 (第1726号)

発行所
ほっかい新報社
060-0806 札幌市北区北6条西7丁目
電話 011(726)4858
北洋銀行(普)0576770

定価
月ぎめ 230円 1部80円
(〒120円)
年ぎめ 2,760円(〒1,440円)



北電やNTTの電柱占用料を四月から四〜六割も値下げしたいとする、道建設部撤回すべきだ。――日本共産党が道に再検討の申入れ

国いなりに北電・NTTにまけてよいのか

電柱など道路占用料の引下げをやめよ

産党道議団は二月二十九日、知事に申入れを行いました。

国道、道道、市町村道など道路占用料について、国は調査検討会の報告書に基づき、地価が下落していることなどにより、直轄国道における占用料の見直し(値下げ)を明らかにして

います。この十年間で、地価が五〜七割下落しているとの調査は、国道占用料値下げだけでなく、道道、市町村道の占用料の引下げをせまっています。

表1. 電柱占有料を4〜7割も引き下げ案

区分	甲	乙	丙
1 m以上	2,000→1,100円	950→670円	710→570円
0.7〜1 m	1,000→570円	950→340円	710→290円
0.4〜0.7 m	1,000→400円	950→240円	710→200円

注1) 甲は札幌、乙は都市部、丙は非都市部
注2) 0.4以下も4月から値下げ

市町村道も値下げ? 市町村道については、市町村自身の「自治事務」であり、国のいなりに値下げすべきでない。地方議員は、各市町村において、緊急の申入れが必要で

電話料が二四・八万本もあり、これらの減額は各々四千百万円、六千百万円にもなります。これら減額計は一・八億円をこえるものな支障をきたすなど、道民

電柱などの道路占用料は、その部分の占有者にまらざる、景観に著しいマイナス作用をおよぼし、また電線などは街路樹の成育に重大な支障をきたすなど、道民

には重大な社会的損失をもたらしていること、厳格に評価すべきです。

また道と管理は道自身の「自治事務」であり、国のいなりに値下げすべきでない。地方議員は、各市町村において、緊急の申入れが必要で

自治体病院に効率化や独立採算を求める政府・総務省の「公立病院改革ガイドライン」(07年12月24日以下「ガイドライン」)が示されるなか、一月二十、二十一日の両日、山下芳生(団長)、紙智子の両参議院議員、宮内聡衆院比例予定候補らによる党自治体病院調査団が道内入りしました。ガイドラインに先行して北海道が打ち出した「自治体病院広域化・連携構想」(以下「構想」)で、病院の診療所化が迫られた

▼第1のポイント

国の責任が棚上げ

総務省のガイドラインを一言でいうと、次のようなものです。自治体病院は「経営悪化」「医師不足」「診療体制の縮小」が深刻なため、「経営環境や医療提供体制の維持が極めて厳しい」ので、「経営効率

「診療報酬の引き下げで7〜8%の減収。薬局をもつているが採算割れしている」(鈴木文雄・上川町長)、「旧産地からくる急激な人口減と閉山処理対策への支出に加えて、地方交付税の削減で十億円のマイナスとなった」(高尾弘明・赤平市長)。

▼第2のポイント

医師不足解消の緊急対策が必要

訪問先で共通して出されていたのは医師不足解消の緊急性です。

▼第3のポイント

財政の物差しで、命の重さは計れない

ガイドラインは、過去三年間連続して病床利用率が70%を下回ったため、病床削減や診療所化の対象としています。政府を先取りした

「効率化」の物差しで、命の重さは計れない



国・道は自治体病院再編の押し付けやめ、抜本的な支援強化を

公立病院再編党国会調査団の記録

「再編・ネットワーク化」「経営形態の見直し」をやるには、病院経営を悪化させた根本原因にメスを入れるという発想はまったくありません。こうした対処療法だらけのガイドラインにたいして、訪問した自治体からは、病院経営が悪化した原因として、診療報酬の引き下げ、療養病床の削減、「三位一体」改革による地方交付税の削減、あとから述べますが医師不足からくる患者はなれをあげていま

「夜の五時に痛み出した主人は、町立病院に一度診てもらって、岩見沢市立に搬送され命をとりとめた。町立に助けられたらと思っていました」「老人クラブの集まりで何とか病院を残してほしいとお願ひされて今日の懇談会にきました」「院長先生は由仁に骨をうずめる覚悟でがんばっている」(由仁市民懇談会)、「層雲峡に救急車を二台派遣すると一時間は他の救急要請に心えられないと聞いている」「診療所化になれば一

時間以上かけて旭川市に通わないといけない。すでに町立病院が対応できないといつので旭川市に引越したい人もいます」(上川市民懇談会)、「一人暮らしで車もない。バス賃千六百元に五十分をかけて通えない」(赤平市市民懇談会)――「(赤平市市民懇談会)――地元党组织が各地で開催した住民懇談会でも出された切実な意見の一部です。国のガイドラインも道の再編「構想」も、病院事業会計の赤字や病床利用率といった数字の上から効率化を迫るものとなっていますが、命と健康を扱う現場は、数で計れるほど単純なものではありません。

道は「構想」も、三十八自治体病院に診療所化、九病院に規模縮小を迫るものとなっています。

山下議員は、「但馬地域では、医師が集約化されただけで、大きな病院に救急が集中したため、その病院も救急対応ができなくなっている」と痛めました。

焦点

沖繩から寒桜の満開の便りがとどいた。沖繩県の今帰仁村の第一回桜まつりがひらかれている。商工会青年部長、役場の観光担当、世界遺産今帰仁城跡の発掘の青年ががんばってライトアップもやった。北の国では、水点以下が続いている。しかし南国沖繩では、近々日ハムのキャンプも始まる。沖繩では本土のような花見の習慣はない。花は一ヶ月近く咲き続けているだけに、桜の下を道敷散策するのが、沖繩流の花見だそう。土勝では、道が広尾など七病院の診療所化案を出したのに対して「町立病院をまもろう」町立病院はいのちの些の終えがわきあがっている。日本共産党と議員団主催の住民集会在一月下旬大樹、本別、士幌、足寄で開かれた。寒風をふきよす熱気がつむ。町議長の発言が二十分の発言予定が二倍にのび、主催者があわてるほど。四月二十一日告示の尾尾町議選に、前崎茂さんが町議にかわって立候補。前崎さんは、役場に四十年勤務し、課長職を歴任した方。いい後継がきたわ」と日曜版が四部をえた。東旭川では、秋生候補、真下道議が参加して「つどい」がひらかれた。二十二人の方が参加して「福祉灯油の枠をひろげて」「天下りやめるべき」「年金四十万なのになせ後期高齢者医療でとられるの」など、意見が続出。一日と日の出が早くなる。六時五十分には夕張岳右から朝陽が。浜からは木トケのミミの便り。春よぶ声をさらに大きく。

表2. 北電・NTTなど道路占用料1.8億円も減額? (単位:千円)

占用物件区分	占用者名	占用数量	旧金額(A)	新金額(B)	差引(B-A)
電柱	北海道電力株式会社	147,014本	134,000	92,170	▲41,830
電話柱	東日本電信電話株式会社	248,077本	190,000	128,840	▲61,160
その他柱類	東日本電信電話株式会社	30,326本	1,600	1,580	▲20
線路	東日本電信電話株式会社	6,627,186m	61,000	35,440	▲25,560
変圧器	北海道電力株式会社	—	60	60	0
公衆電話など	北海道電力株式会社	—	9,890	9,210	▲680
郵便ポスト	郵便局株式会社	231個	100	100	0
広告塔	—	122㎡	400	200	▲200
その他	北電興業株式会社	—	64,750	32,050	▲32,700
埋設管	東日本電信電話株式会社	13,571,197m	219,000	176,000	▲43,000

